



育成センターだより

鹿児島市山下町6-1 Tel 227-1972

- 1 深夜はいかい・非行防止
学校・家庭・地域・関係機関等の連携による啓発とはいかい少年への適切な声かけ（家出、万引き、飲酒ほか）
- 2 校区の環境点検の実施と適切な対応
少年の生活環境点検調査及びパトロール活動の推進（河川や海岸、不健全遊技場、有害図書・玩具等取扱店舗ほか）

警察庁「少年からのシグナル」から見える青少年の現状



警察庁は、毎年7月に少年非行・犯罪被害の現状等について紹介する「少年からのシグナル」を発行しています。令和4年版には、令和3年中の状況が掲載されており、非行等を未然に防ぐための参考になるものです。

凶悪犯や窃盗犯などの令和3年中の刑法犯少年の検挙人数は戦後最少の1万4,818人で、平成24年中の約2割まで減少しています。飲酒、喫煙などの不良行為で補導された少年は30万8,563人で、平成24年中の約3割まで減少しています。

しかしながら、少年の薬物乱用は増加傾向にあり、特に大麻事案の令和3年中の検挙人数は994人で過去最多を更新しました。青少年の中には、友人・知人やインターネットからの「依存性はない」などの誤った情報をうのみにして、好奇心・興味本位などの軽い気持ちで大麻に手を出してしまう実態がみられます。そのため学校等では、少年サポートセンターによる薬物乱用防止教室を実施したり、警察庁が配信しているYouTube動画を視聴する時間を設定するなどして啓発に努めているところです。

児童虐待事件の検挙件数は2,174件で過去最多となっており、態様別では身体的虐待が最も多く、次いで性的虐待、心理的虐待となっています。警察等からの児童相談所への通告が最も多い状況ですが、学校や地域においても、疑わしきは積極的に警察や児童相談所に相談・通告する必要があります。

SNSに起因する性被害に遭った子どもの数は、低年齢層へのインターネット利用の広がりに伴い、1,812人と高い水準で推移しています。被害に遭った子どもの数が最も多いのはTwitter、次いでInstagramです。知り合うきっかけとなった投稿内容の中で、「プロフィールのみ」「趣味・嗜好」など、一見被害への発展が予測しづらいものが約5割を占めており、SNSへの安易な個人情報の掲載は極めて危険であることを示しています。

このように、表面上、少年非行は減少傾向にあるように見えますが、SNS等の利用による見えにくい非行が進んでいるのかもしれない。これまで同様、警察等の関係機関・学校・保護者・地域が密接に連携しながら、子どもたちをしっかりと見守っていくことが一層求められていると考えます。



他人を頼ることで...

先日、あるポスターが目にとまりました。そこには「一人でなんでもできるようになることが自立じゃない。困ったら誰かを頼ったっていい」とありました。

学生だった頃、思うようにいかないことが多くふさぎ込み、土手で川を見ながら考え込んでいたことがありました。そんな時、近所のお姉さんが通りかかり、優しく「どうしたの」と声を掛けてくれました。ためらいはあったものの、『頼ってみよう』と思い、自分の想いを話してみました。お姉さんは、真剣なまなざしでこちらを見て、真剣に想いを受け取り、励ましの言葉を掛けてくれました。心がスッと軽くなりました。

当時は、誰かを頼り、自分の辛さを話すことにためらいがありました。しかし、この経験から断言できることは、人に頼ることは、人のぬくもりに触れ、心が軽くなるだけではなく、下を向かず前を向き、再び歩き出そうとする勇気をもらうことができるということです。

人生には困難がつきものです。あの時、思い切って話さなければ、深みから抜け出せず、悶々とした日々を送っていたらうし、困難を乗り越える術を知らないままだったに違いないと思います。少しの勇気を持ち、自分をさらけ出すことで新しい風景が見えてきます。そして、次は困っている人に寄り添ってあげる。それが自立なのかもしれません。

夏の心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育てる運動

本市では、児童生徒の夏休みを含むこの時期に、家庭、学校、職場、地域及び関係機関・団体が密接な連携を図りながら、下記の「夏の心豊かで元気あふれる『さつまっ子』を育てる運動」積極的に展開していきます。市民一人一人が青少年の健全育成についての理解を深め、心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成していきましょう。

記

- 1 期間 令和5年7月1日(土)～8月31日(木)
- 2 テーマ及び重点事項
「明るく たくましく すこやかに～みんなで環境点検～」
- 3 実践事項
 - (1) 地域ぐるみで、青少年へのあいさつ、声かけを実施し、非行等の未然防止に努める。
 - (2) 環境点検等（危険箇所等の点検）を実施し、交通事故・水難事故等の未然防止に努める。
 - (3) 「早寝 早起き 朝ごはん」の習慣化やラジオ体操への参加などを通して、基本的な生活習慣の育成に努める。
 - (4) スマートフォンやゲーム機器等の正しい使い方やネットトラブルについて、家庭や地域で話し合う。